

11. 行催事

11- 1. 開幕式

4月28日、厳戒態勢の中、習近平国家主席が出席して、北京国際園芸博覧会の開幕式典が執り行われた。一帯一路フォーラム出席のために訪中の二階自民党幹事長一行が石月公使（政府代表）、長井国交省審議官とともに招待出席した。また、中国館には博覧会協会による日本の展示（東京タワー、右下写真）が飾られた。



11- 2. オープニングセレモニー

4月29日午前9時より開催された、北京国際園芸博覧会全体の開園式の後、日本国出展としてテープカットセレモニー、日本展示館として銘板除幕式、続いて日本庭園として鯉のぼりの掲揚式を実施し、終了後一般公開した。

開催時間 10:00~11:00

- ・高鳥農林水産副大臣 挨拶
- ・石月日本国政府代表 挨拶
- ・長井国土交通省官房審議官 挨拶
- ・テープカットセレモニー
- ・高鳥農林水産副大臣 日本展示館銘板除幕
- ・日本庭園鯉のぼり掲揚式
- ・記念撮影
- ・内覧会（日本庭園、日本展示館）
- ・池坊 礼式生け



11- 3. ジャパンデー・フェスティバル

9月12日にジャパンデーを開催した。9月12日から14日をジャパンフェスティバルとし、日本文化の紹介を下記の通り計画した。下記、赤色は公式プログラムとして実施された。

9月12日			9月13日		9月14日	
グイルイシアター2 VIPルーム	会場内	日本国出展エリア	グイルイシアター2	日本国出展エリア	日本国出展エリア	清華大学
※赤色は公式プログラム						
8:00						8:00
		日本国出展視察				
9:00	代表との会談					9:00
10:00	セレモニー 文化紹介アトラクション					10:00
11:00	博覧会場視察	意見交換会	花いけバトル	緑日・ワークショップイベント等 庭園ツアー	緑日・ワークショップイベント等 庭園ツアー	11:00
12:00		記念レセプション		庭園ツアー	庭園ツアー	12:00
13:00				庭園ツアー	庭園ツアー	13:00
14:00						14:00
15:00	横浜花博PR 花いけバトル	日本出展オープン	花いけバトル		記念シンポジウム	15:00
16:00						16:00
17:00						17:00
18:00						18:00
19:00						19:00
20:00						20:00
21:00						21:00

(公式プログラム)

(1) 日本国出展視察

視察参加者はVIPゲートより入場し、カートにて移動を行い、8時半より日本国出展の視察を行った。

(2) 両国代表面談

9時よりグイルイシアターのVIPルームにて石月日本国政府代表、榊原2025年国際博覧会担当大使、鈴木農林水産省官房生産振興審議官、長井国土交通省官房審議官らは、中国側の張中国国際貿易推進委員会副会長らと歓談した。両国の代表者がサイン帳に署名した。



(3) ジャパンデーセレモニー

9時半よりグイルイシアター2にて式典が開催された。一般来場者にも参加いただいた。セレモニーの進行は日本語で行い、中国語の逐次通訳を行った。

- ・国旗掲揚（映像にて実施）
- ・石月日本国政府代表 挨拶
- ・鈴木農林水産省官房生産振興審議官 挨拶
- ・張中国国際貿易委員会副会長 歓迎挨拶
- ・記念品贈呈
- ・榊原2025年国際博覧会担当大使プレゼンテーション
- ・花いけライブパフォーマンス



セレモニーでは、文化プログラムとして花いけジャパンプロジェクトによるパフォーマンスを披露した。壺太郎氏の和太鼓の演奏で始まり、演奏と映像のイメージにあわせ、華道家やフローリスト（日向雄一郎、平間磨理夫、宮永英之、曾我部翔、細川康秀）がそれぞれの個性あるアート作品を創作するパフォーマンスを披露し、ジャパNDERを盛り上げた。

なお、ジャパNDERが政治日程（内閣改造）と重なったため、農林水産省及び国土交通省の政務とフラワー議員連盟からの参加はなかった。

（４）ジャパNDER記念レセプション

12時より日本国出展エリアにて博覧会協会幹部や海外出展各国を招き、記念レセプションを開催した。世界に日本のすし文化を普及している小川洋利先生によるすしの提供や、和太鼓と共に花いけライブパフォーマンスを披露した。

- ・長井国土交通省官房審議官 挨拶
- ・石月日本国政府代表 乾杯挨拶
- ・榊原 2025 年国際博覧会担当大使 挨拶
- ・渡辺横浜副市長 挨拶
- ・涌井日本国出展委員会委員長 閉会挨拶



(5) ジャパンフェスティバル催事

「花いけバトル」

9月13日には、一般観客参加型の「花いけバトル」を開催した。バトラーと呼ばれる華道家やフローリスト8名（日本人4名、中国人4名）が、5分間という限られた時間で作品を作り上げる戦いがトーナメント方式で行われた。勝敗の審査は会場観客が「赤・青」のうちのわを掲げて行われ、優勝者は中国人バトラーであった。花を通じた国際交流となり会場は大いに盛り上がった。



「日本の縁日」

9月13日～14日の2日間、日本の伝統的な玩具などを縁日で来場者に楽しんでもらうことができた。「けん玉遊び」、「風船ヨーヨー釣り」のような日本の祭りの縁日アイテムだけでなく、水に浮かんだお花をすくってもらう「お花すくい」も大変人気であった。家族連れを中心に大勢の来場者が集まり、大いに盛り上がるイベントとなった。



「日本庭園解説イベント」

9月13日と14日、庭園の芝生広場にて、日本庭園出展実行委員会による庭園解説イベントが、各日3回、1回あたり15分～20分程度で実施された。解説は日本庭園に興味があっても理解が難しいと思われる池の石組、灯籠等の配置とその意味や植栽、砂利敷き、竹垣等の手入れの仕方等といった内容で、来場者に対し庭園の仕組みについての理解を深めて頂いた。

実演者は日本の造園職人のイメージに合うよう法被・足袋を身に纏って解説を行った。



（関連イベント）

「2019年北京国際園芸博覧会開催記念シンポジウム」

9月14日、博覧会会場外の清華大学にて、公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会の主催により、シンポジウムが開催された。

「日本と中国における花と緑—園芸や造園にかかわる文化と伝統—」をテーマに、涌井東京都市大学特別教授の「日本庭園の系譜に与えた中国文化の影響、そして未来社会への貢献」と題して基調講演等の後、パネルディスカッションを行った。当日は学生を含む169名もの一般参加者が集まった。

